

日本国内でも活躍する修了生・在学生



藤岡 篤司 [修了生]

一般財団法人 つわの学びみらい NPO 法人 学習創造フォーラム

フィリピン・ミンダナオ島の農村部にある現地 NGO 児童養護施設の運営に携わっていたとき、様々な障害を抱えた児童が学校教育に参画できない現状を知ったことから、現地に特別支援学級を立ち上げたことをきっかけに本学の修士課程に進学しました。本研究科では、多様な視点を持っている履修生や、世界中に研究フィールドを持っている先生方と共に、社会課題解決に向けた議論・研究を進めることができました。その後は修士課程での学びや研究活動などの経験を活かし、大学の講師として教育活動に携わりながら、「ひとづくり・まちづくり」をキーワードに、子どもから大人、高齢の方まで、性別や国籍、障害など関係なく、誰もが活躍できる社会を目指し、またそれを届けたいという思いで活動をさせていただいています。



岩塚 善哉 [修了生]

小学校教諭

現在、小学校において、通級指導教室担当として勤務し、通常学級の困り感がある児童の支援をしています。また、特別支援教育コーディネーターも務め、校内外における連絡調整や保護者との関係調整をしています。修士課程は、JICA 青年海外協力隊と同時並行で2年間履修しました。協力隊はナミビアへ配属され、事例をもとに改善点を見いだしていく「事例検討会」をナミビアで実施し、修士論文は、事例検討が教員の指導方法に及ぼす影響についてまとめました。現在の勤務先において、研究した事例検討を応用することがあり、様々な視点や角度から、物事を考えることができるようになりました。そして、学生同士で SNS や大学院の掲示板で進捗状況を確認し意見を交換したことで、それまで関わることのなかった人とのつながりもでき、海外にいながら学べたことは、大変有意義なものとなりました。



雨宮 美穂 [修了生]

青年海外協力隊としてトンガ王国で活動後、貿易商社で勤務し現在は政府系団体で国際協力の調査や研究に関する調達業務に従事しています。青年海外協力隊として開発現場を経験し、現職に従事する中で、自身の関心やその問題を深掘し、考察する機会が持たたいと考え、仕事を続けながら学ぶことができ、国際開発現場で求められる専門的な洞察力を養うことができる本研究科への入学を決めました。本研究科では様々なバックグラウンドを持った同期と教授から刺激を受け、多面的な考えや視点を持つことができ、今までできなかった自身の関心と向き合う時間を過ごすことができました。



小林 純 [修了生・国際社会開発専攻 博士課程 3 年]

(株) 日本サポートアットホーム

青年海外協力隊（理学療法士）として、東ティモール民主共和国地方部に赴任し、地域社会に根ざしたりハビリテーション（Community Based Rehabilitation: 以下、CBR）に携わる中で、「CBR は障害児の社会参加を促進しているのだろうか」という疑問を抱きました。この疑問を社会開発の視点から解決したいと思い、修士課程に入学しました。研究を通じて、CBR が事業運営に関する意思決定へ障害児とその家族の関与を促進する一方で、地域社会が「CBR は私たちの取り組みではない」と認識し、CBR 運営に関する意思決定へ関与していないことも明らかになり、障害児を取り巻く「地域社会」に目を向ける必要性を感じました。現在、日本地方部の理学療法士として、厚生労働省が全国の市町村向けに提唱して始まった介護予防事業としての通いの場に携わる中で、通いの場が高齢者を含めた多様な個人の参加を支援する地域共生社会に向けた場とプロセスになっているのかを明らかにしたいと思い、博士課程に在籍して研究を続けています。



大橋 充人 [修了生]

愛知県職員

愛知県庁で様々な仕事に従事する中、多文化共生の仕事に携わることになり、日本で暮らすムスリムのことを知りました。大学時代にアラビア語を勉強したこともあり、彼らに強い関心を抱いたのですが、仕事として深く知ることは難しいだろうと思っていました。そのうちに、ひょんなことから、本研究科のことを知り、ここで彼らのことを研究しようと思いつきました。最初は、国際開発の経験がなく、不安でしたが、これまで取り組んできた仕事は、愛知県をフィールドとした社会開発なのだ気づき、改めて、これまでの仕事を開発の視点から振り返ることができました。また、それ以外にも多くの知識を得、ものの見方を学ぶことができました。偶然入った本研究科ですが、現場目線で実践的な考え方が重視されることが肌に合い、同期の人たちとも気が合って、充実した 2 年間を送らせていただき、感謝しています。

※掲載者の所属などは、2024 年 6 月現在のものです。

在籍者情報・グラフ（2024 年 4 月現在）

